

あってはならないこと（ゴミ問題について）

多摩OLクラブ 菅原 琢

「あっては、ならないことが起こった」で始まる多摩OLジュニアチャンピオン大会でのゴミ捨て事件の報告メールに込めて、多くの書き込みが寄せられた。前号で紹介できなかったメールを、菅原氏が、多摩OLの対策とともに紹介

1月21日に開催されたジュニアチャンピオン大会は、前夜の降雪により開催が危ぶまれましたが、250名の参加者をもって、開催にこぎつけることができました（当日申込者34名含む。欠席者は160名）。悪条件の中、参加された皆さん、本当にありがとうございました。

また、運営上の不手際をお詫びいたします。

『その「本当のオリエンテーリング好きが集まっている」大会で「あってはならないこと」が起きてしまいました。

表章式も終わり、会場内の人もまばらになった頃、「そこの駐在だけ」とお巡りさんが体育館の玄関先に。「責任者出てこい」とのことで、大会実行委員長の私が対応しました。

なんでも、民家の敷地内に「人目をばばかるようにゴミを捨てていった者がいる」とのことで（民家から駐在所に連絡があったようです）、たまたま近所に居合わせた無関係な若者クンを連行してご登場とあいなったわけです。

「いったいおたくはどんな指導をしているんだ」と散々お小言を頂戴してしまいました。ひたすら頭を下げ続けるしかありませんでした。関係のない若者クンにも申し訳なかったです。白い袋に入った「ゴミ」の中身は、汚れたシューズと靴下でした。怒りを通り越して情けなさでもう何も言えませんでした。

誰が捨てたかは判りませんが、残念な

がらJC大会に出走した250名のうちの誰かの仕業であることは間違いがありません。

オリエンテーリング愛好者にこんな事をする人がいるなんて信じられません。今年の成人式では全国各地で普通の大人には信じられないようなことがいろいろと起きましたが、そんなモラルの崩壊がOL界にも広がっているのでしょうか？

オリエンテーリングは人様の土地をお借りして楽しませていただくスポーツです。地域との関係がどれほど重要なことか。地元で嫌われてしまつては、2度とそこで大会を開けなくなるかも知れません。競技者1人1人がオリエンテーリング界を代表する顔である、という自覚を常に持つようにお願いします。あなたの「粗相」はオリエンティア全体の評価につながるのです。』

という投書をオリエンテーリングメーリングリストに書き込んだところ、様々な反響がありました。その一つ一つをここで紹介できればよいのですが、おそらく20ページを割いても収まりきれない量ですので、抜粋を紹介したいと思います。ぜひ、読者の皆さんもこの問題について考えて下さい。そして、クラブ内のモラル向上を図って下さい。学生クラブではまもなく新入生を迎える時期になります。新人教育、よろしくお願いします。

■そうです。ゴミ箱は選択肢の一つです。でもゴミ箱がないからと言って、ゴミをそこに捨てて良いことにはなりません。ゴミ箱がないからこんな事が起きたんだ、と主催者のせいにされてはかたがたありません。

1人の無責任な行動が、OL界全体を窮地に追い込む危険性だってあるし。協賛企業の応援だっただけなくなるかもしれない。

参加者1人の行動がオリエンテーリング愛好者全体の評価につながると言うことを忘れないで下さい。地元の人には積極的

に挨拶を（とわざわざ会場に貼り紙するのも妙と言えば妙なんです）気持ちよくしていった方が、いらない摩擦を回避できるだろう。地元感謝の気持ちを持っていればそれは自然と行動に表れるはず、なんですけどね。

高尾山口駅にはゴミ箱がありません。なぜでしょう？ 考えてみて下さい。そうなったには理由があるのです。ゴミ箱はあった方が便利でしょう。でもそれ無くてもオリエンテーリング大会は開けます。各自がちょっと不便な思いを共有すれば済む話です。何でもかんでも便利さを求めるのはやめましょう。

会場をきれいに掃除してからお返しするのは基本中の基本。それは主催者のつとめです。でも参加者が協力してくれれば、参加者の負荷はずっと軽くなるというのも事実です。

昔は多くの人が運営側に回っていたのに、最近は参加するだけのズルい人が増えている感じがします。時には自分が運営する側に回るのがOL界のしきたり？で、そうすることによっていろいろ経験できていたんだと思います。（菅原）

■私は山の方にも少しは関係しているのですが、みなさんは最近山に登ったことがありますか。非常にきれいで、清掃登山にいても合うようなゴミはほとんど落ちていないといっても言い過ぎではありません（山にもよるのでしょうか、富士山などは？）。これも山岳関係者、山の指導者が何十年にもわたって「ゴミ持ち帰り運動」など、涙ぐましいほど根気よく努力を続けた賜物です。最近はトイレすら携帯しようという運動が行われています。山の方がOLよりずっと組織的にはしっかりしていますが、一方でいろいろな人が参加しているはずなのに。

ゴミ箱を置いたから解決する、良い方向に向かうという判断でしょうか。私は決してそうは思いません。これこそ時代に逆行で

はないでしょうか。多摩多摩OLのメンバーはこのようなことの起こらないよう、これからも参加者への呼びかけなど一層根気よく懸命に続けていくでしょう。努力したからといって、もちろんこのようなことがゼロになるなどとは思っていません。しかし限りなくゼロに近づける努力こそ必要なのではないのでしょうか。参加者のモラルという点でゴミ云々に止まらず、究極はテレインの使用可否の問題にまでつながる問題なのです。私は、例えばクラブの大会の初心者説明では、技術の説明とおなじウエイトでモラルの説明をするようにしたいと思っています。大学のクラブへも新入会員に対するモラル教育をなにをいしてもまず十分にさせていただくことを要望したいと思います。

要は、指導者の姿勢が問われているのです。（高橋厚@多摩OL）

■ どういう事情があって、ゴミが捨てられたのかは分かりかねるのですが、特に今日に始まった話でもないような気がします。他の方々も書いてあるとおり、過去の大会でもマナーの問題はあったのではないのでしょうか。むしろ、大会の規模が現在よりも大きかった昔の方が確率的には高そうに思えます。

ただ、そういった事件に関する情報が伝わる手段が限られていたのではないのでしょうか。いずれにしろ、数百人も集まればマナーが悪い人が出てきて当然だと思います。出てこないと言いきるのは、主催者としてリスク管理が出来ていないといわれても（警察に指導不足を指摘されても）しょうがないとも言えるかもしれません。

ということで、是非、こう意見をもっとメーリングリスト外に広め、オリエンティアの意識改革を行うべきと考えている方々、是非、オリエンテリングマガジン購読と、営業を、というのは、宣伝なのですが、いずれにしろ、主催者としては、理想論だけでは、いけないような気がします。ゴミ箱設置も含めて何かしら、ゴミのポイ捨てを防止する対策が必要ですね。

■ 地元で迷惑をかける困った人はオリエンテリングの常識を知らない人も参加する1000人規模の大会での話と思っていたのですが、雪のテレインに出かける200人規

模の大会にも出現するようになったということでしょうか。

問題を起こされるたびに「民家の敷地にゴミをすててはとらないこと」「果樹園の果物を取らないこと」なんて書いていてはきりがいいし、プログラムを見た地元の人はオリエンティアは無法者の集団と思われるですね。そこで困った人予備軍への警告文としてこんなのはどうでしょう。

『「オリエンテリングは地元の皆さんの協力なしには成り立たないスポーツです。参加者の一人でも地元の人に損害を与えたり迷惑行為があると、そのためにこの地域でのオリエンテリングが出来なくなることもあります。」・・・という事を理解されている大多数の皆さんは以下の警告を読む必要はありません。

警告

参加者が地元関係者に損害を与えたり、迷惑行為があった場合、主催者はその状況を調査し、該当参加者の氏名公表、地元への謝罪要求、賠償請求をすることがあります。

何が迷惑行為なのか？それは自分が相手の立場だったらどう思うかを考えてご自身で判断して下さい』

隠れて民家の敷地にゴミを捨てる人の思考形態が理解できないので、ききめがあるか自信ありませんが、不心得者にたいして貴方は少数派ですよというメッセージにはなると思えます。メジャーになっていくとモラルの低い人が現れてくるのも現実でしょうが、そのような人の割合を少なくすることはできると思います。

ゴミを持ちかえりでなく、主催者が回収するのうまくいくなら選択枝の一つだと思います。オリエンティア(運営者+参加者)の地元に対する責任はゴミを誰が持ちかえるかよりゴミを残さないという結果ですから。

選択枝の一つではありますが、今の私はこちらを選択することは出来ません。参加者が皆ゴミを出せば主催者が膨大なゴミ処理の問題を抱え込むことになります。また山岳でのゴミ箱撤去、もちかえり運動が効果をあげたことを認識している行政関係者の理解を得るのも難しくなると思えます。80年代に韓国の新聞が登山者のマナー向上と山の環境浄化のキャンペーンをやっ

た時に日本のゴミ持ち帰り運動が評価されていました。

変な事をする人はまだ少数派なので、ゴミ持ち帰り式で頑張りたいものです。

だいぶはしょりましたが、いろいろな声を紹介しました。

最後に、多摩OLはジュニアチャンピオン大会の申込者全員（欠席者を含む）に以下の内容を含む葉書を送りました。

■ ジュニアチャンピオン大会申込者各位
さて、非常に残念ながら報告をしなければなりません。大会終了後、参加者の誰かが会場近隣の他人の敷地内にゴミを投棄し、駐在所に通報されるという事件が起きてしまいました。（ちなみに、ゴミの中身は穴の開いた靴と汚れた靴下でした）

オリエンテリングは、他人の土地をお借りして、走らせていただくことで成り立つスポーツです。地元と良好な関係を維持しなければ、大会開催はおろかテレイン使用すらできなくなってしまいます。1人の不心得者の行動がオリエンティア全員の評価を一瞬にして台無しにしてしまうのです。常に自分がオリエンテリング界の顔である、という自覚を持つ必要があります。

参加者一人ひとりがルール・マナーを守ってくださるよう、重ねてお願いいたします。一地域クラブの我々だけでできることには限界があります。皆さんの所属クラブでマナーの啓蒙活動を行っていただければ幸いです。

今回の事件を踏まえて、オリエンティアの皆様へ上記のことを再考していただきたく思います。また、多摩OLとしての対応を明確にするまで、現在販売しているすべての地図の販売を一時中止いたします。

多摩オリエンテリングクラブ会長
平 雅夫

この件に関するご意見・お問い合わせは、
多摩OL事務局 〒187-0044
小平市喜平町3-2-8-408 西岡方
または tama@orienteering.com までお願いいたします。

（なお紙面の制約上、菅原氏の当初の投稿から大幅にカットしたことをお断りします）